

【熊本S. J. C. D. 例会 抄録】

演 題 磁性アタッチメントを用いたインプラントオーバー デンチャーの1症例

～高齢化時代におけるインプラント治療の役割～

演者名 前田明浩

日 付 2007年1月23日

keywords

1. 高齢化時代
2. 磁性アタッチメント
3. インプラント

抄 録

最近、高齢化の急速な進行が言われています。このような時代における患者構成やニーズの変化に対応するべく当院では昨年からの訪問診療と患者様の無料送迎を始めました。今回の症例の患者様はこれらの患者様の症例の中から掘り起こされた患者様です。今回はこの患者様の症例の紹介と、高齢化時代におけるインプラントの役割について考えてみたいと思います。

症例：M. S さん 74歳 女性

主訴：上顎に入れ歯を作ったが落ちてしまい使えない。そのため、物が噛めない。

現病歴：他院で相談したところ、インプラントは無理だと言われた。落ちてしまうので、現在上顎義歯は装着していない。

診査・検査：上顎の顎堤はフラットで、口腔乾燥も認められる。下顎は残存歯の清掃状態は悪いが、臼歯部の義歯は比較的安定している。レントゲン検査では、上顎骨の吸収が高度に認められる。

診断：上顎は上顎洞前壁部にはインプラントの埋入が可能と思われる。下顎は義歯、インプラント共に可能と思われる。

治療計画：患者様の強い希望と侵襲の小ささ、効果を総合的に考えて上顎に2本のインプラントの埋入と、磁性アタッチメントを用いたオーバーデンチャーを計画した。

治療：上顎にステントを作成し、CT撮影した。インプラントの埋入は、ステントをガイドとし、術中にレントゲンを撮影しながら細心の注意を払い行った。脆弱な上顎骨であるため、インプラントはノーベルバイオケア・リプレイスセレクトテーパード（歯根型）直径4、3mm長さ10mmを使用しセルフドリリングで埋入した。

経過と評価：現在テンポラリーデンチャーの状態だが患者様は入れ歯も落ちずに何でも良く噛めるととても満足されている。まだ、装着後2ヶ月だが術前に比べ目も大きくはっきりと開くようになり、全身の姿勢も良くなった。但し上顎に2本のみのインプラントというところもあり今後は注意深い咬合のcheckと経過観察が必要であると思われる。

まとめ：体力の低下した高齢者に対しては、いわゆるアイデアルプランとは違って最も最少限の侵襲で最大の効果と満足を得られる治療法の選択が必要と思われる。そのような要求のなかで、インプラントは高齢者に対してもQOLを高める重要なアイテムであると思われる。